

塩竈市学校施設長寿命化計画・概要版

第1章 学校施設の長寿命化の背景・目的等

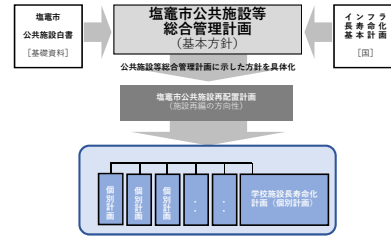
1 背景

- 本市の学校施設の老朽化度は平均78.1%と高い状況にあり、その対策が課題となっている。
- 国からの要請もあり「塩竈市公共施設等総合管理計画」に基づく「学校施設の長寿命化計画」の策定に取り組んできた。

2 目的

学校施設の老朽化対策、教育環境の質的改善、環境対策を併せて実施する再生整備と予防保全による長寿命化とともに、ライフサイクルコストの縮減と財政負担の平準化を図ることを目的とする。

図1 計画の位置づけ



3 計画期間

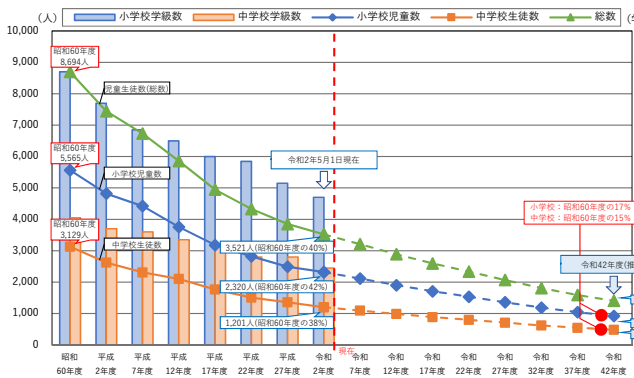
令和3年度～令和12年度までの10年間
※概ね5年ごとに内容の見直しを行う

4 対象施設

11校（小学校・中学校・浦戸小中学校）

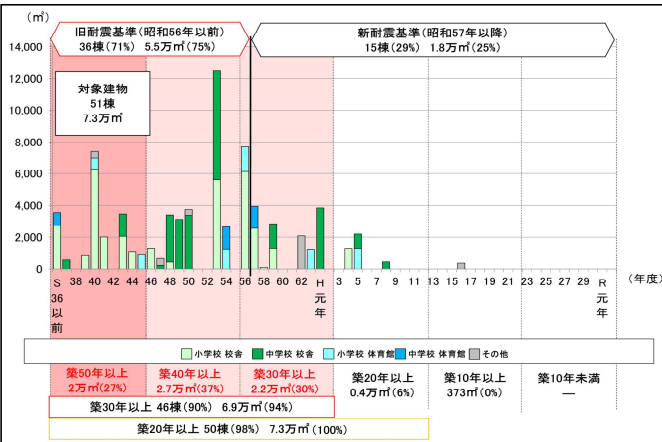
第2章 学校施設の実態

図2 年度別児童・生徒数の推移



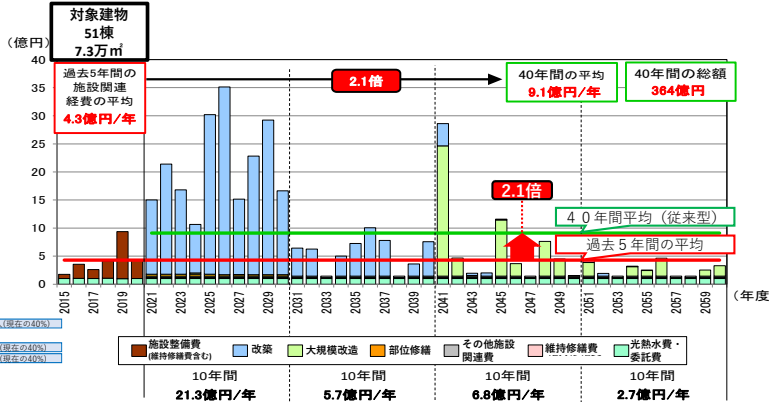
●現在は昭和60年の約40%。今後も減少見込みである。

図3 学校施設の築年別整備状況



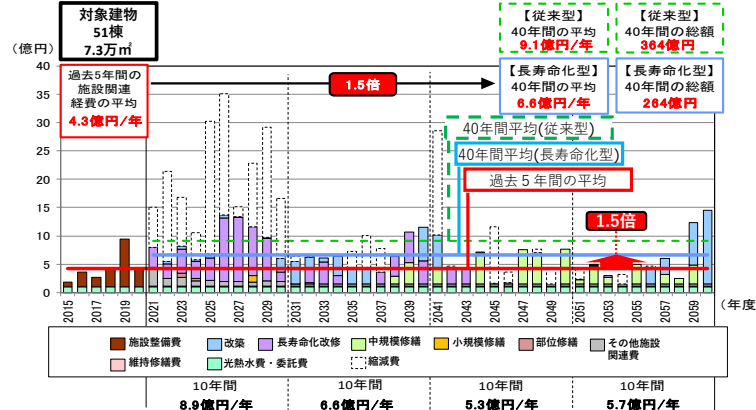
●築30年以上の建物が約94%。10年後にはほぼ全てが築30年以上。
●昭和40年代～50年代に整備が集中。

図4 今後の維持・更新コスト（従来型）



●改築時期が集中する。 ●改築するまで整備水準は向上されない。

図5 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）



●直近10年間に改修時期が集中する。 ●教育環境の早期改善が図れる。

◎長寿命化改修により、早期に良好な状態に改善でき、コストも抑えられる。
◎長寿命化改修の場合でも、直近の整備費の1.5倍の推計となる。

第3章 学校施設の目指すべき姿

課題の整理

安全性への配慮から、早急かつ計画的・効率的な対策が求められている。

安全・安心な学校施設

可能な限り今ある建物を活かしつつ、整備コストを抑えながらより良い教育環境の確保が求められている。

快適な教育環境を備えた学校施設

社会的ニーズに対応した快適性環境面、地域利用などの施設機能が求められている。

地域に開かれた学校施設

第4章 施設整備の基本方針

1 計画的・効率的な施設の長寿命化

(1) 計画的な長寿命化改修による施設の長寿命化 ア 長寿命化の方針

少しでも長く施設を使い続けられるように対応することとし、コストを抑えながら、長期使用を見据えた建物の安全性の確保や施設機能の回復等を確実に実施していく。

イ 目標使用年数の設定

目標使用年数は、概ね80年とする。

ウ 基本的な改修周期

建築後40年から50年程度で長寿命化改修を実施し、改修後40年以上の使用を目指す。

(2) 長寿命化改修と中規模修繕の組み合わせによる効率的・効果的な整備

2 教育環境の質的改善に向けた施設の機能補完

学校を取り巻く様々な環境の変化に対応し、配慮が求められていることから、教育環境の質的改善に向け、各学校施設の状況に応じて、施設の機能補完を実施していく。

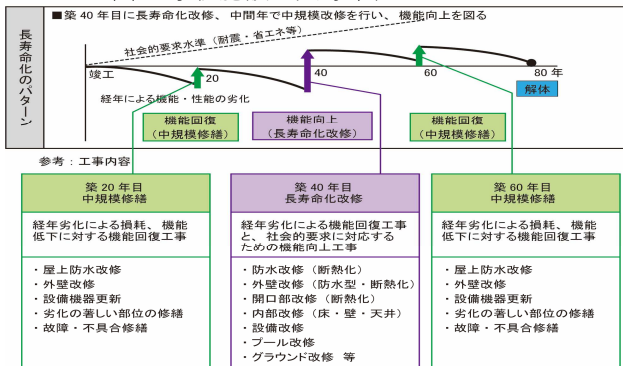
- (1) 安全・安心な施設
- (2) 快適性の確保
- (3) 環境への配慮
- (4) 適切な教育環境

3 地域利用を踏まえた施設整備

学校施設は、災害時の避難所としての役割や地域コミュニティの活動拠点としての役割などが求められることから、地域に開かれた学校として、地域利用を踏まえた施設整備を推進する。

- (1) 安全・安心な施設
- (2) 快適性の確保

図6 学校施設の長寿命化のイメージ



第5章 施設の整備水準

1 基本方針を踏まえた整備の考え方

(1) 「施設の長寿命化」

長寿命化改修にあたっては、改修後40年以上の使用を目指し、躯体の補修などの建物の耐久性の向上に関する整備を実施する。

(2) 「教育環境の質的改善」

「地域利用を踏まえた施設整備」

学校施設に求められる機能が多様化している中、教育環境の質的改善及び地域利用の観点から必要となる整備内容を整理し、長寿命化改修に併せて整備を実施する。

また、各学校の個別の状況に応じて配慮が必要な項目については、整備実施時に対応を検討する。

図7 長寿命化改修等の整備水準

部位	長寿命化改修		現状の整備水準
	高	改修メニュー（整備水準）	
構造躯体	●	躯体中性化対策・鉄筋腐食対策	● 既存のまま
外部仕上	●	防水改修（断熱化）	● 断熱なし
	●	防水型複層塗材・内断熱	● 薄塗材 断熱なし
	●	サッシ交換（断熱化）	● 現状のまま
内部仕上	●	内装の全面更新（木質化）	● 既存のまま
	●	内装の全面更新（ドライ化・洋式化）	● 既存のまま
電気設備	●	受変電設備の交換（容量UP）	● 既存のまま
機械設備	●	給水設備の改修（加圧給水方式に変更）	● 既存のまま

長寿命化において実施する機能向上と整備例

防災・防犯機能向上	生活環境の向上	学習環境の向上	環境性能向上	ユニバーサルデザイン
・防犯監視 等	・自然採光・通風 ・木質化 等	・ICT設備 等	・高断熱高気密化 等	・スロープ手すり ・多目的トイレ等

長寿命化において配慮すべき項目

可変性	更新性	耐久・耐候性	メンテナンス性	省エネ・省資源
-----	-----	--------	---------	---------

第6章 長寿命化の実施計画

1 長寿命化改修等の優先順位付け

改修等を行う学校の優先順位については、築年数により、それぞれの学校を3つのグループに分類する。なお、グループ内での優先順位は、今後の状況も踏まえ、適宜変更可能なものとする。

グループ1：建築後40～50年程度で、躯体が比較的長く、大規模改造事業等を未実施の学校。

⇒優先して長寿命化改修を実施し、適切な維持管理・予防保全及び適切な時期に中規模修繕を行い、その後改築等を行う。

グループ2：建築後40年以上経過し、躯体の老朽化が進み、大規模改造事業等を実施済みの学校。

グループ3：建築後30年～40年程度で、大規模改造事業等を未実施の学校。

⇒適切な維持管理・予防保全を行い、グループ1の完了後の計画とする。

2 実施計画

令和12年度までの第1期計画は、優先して長寿命化改修が必要なグループ1を対象とし、築年順を基本に設定する。

なお、実際の工事等の実施年度は、別途実施する詳細診断を踏まえ、文部科学省の補助制度や合理的な工事範囲等を勘案しながら、塩竈市長期総合計画（実施計画）において決定する。

第7章 長寿命化計画の継続的運用方針

本計画は、学校施設の改修や建替えの優先順位を設定するもので、今後、事業の進捗状況や劣化調査等の結果を反映しながら、適宜見直しを実施し事業を推進する。

図8 学校施設整備におけるPDCAサイクル

